

磁力の法則によると、同極では反発しあいますが、異極ではむしろ引き合います。言い換えれば、この科学的現象は、科学を通して引き合いではなく、友だちにつながられた関係によって引き合うのです。日のいづる国、東洋の真珠、二つの国には、違う宗教があり、文化、伝統があります。違いはありますが、似ている部分もあります。皮肉ですが、それが真実です。二つの国は、長期にわたり、手を取り合い、兄弟の間柄を育んできました。この関係は、二つの国によって築きあげられ、その関係は未だに生きています。しかし、関係という言葉はどのように定義すればいいのでしょうか。

人間関係とは、二人かそれ以上の人の集まりの中で、つながりを持つこと、と定義することができます。特に、行動様式や他人へ感情について言えば、他者との深いつながりを持つことと、定義することができます。関係は、単につながりとしての意味だけではなく、育むもの、強化するものとしての意味があります。人間関係には、様々なタイプがあります。一つは、感情的な関係です。個人個人、恋愛の習慣に含まれます。それは、最後には結婚の誓いという形で終わります。もう一つは、観念的なもので、社交な雰囲気や、相性がいいもの同士の雰囲気の中で起こります。また、父性的、母性的なタイプもあります。子どもや両親を含む関係です。

人間関係を改善し、強化する方法はたくさんあります。それは、感情的関係、観念的關係、父性的もしくは母性的な関係の構築です。いずれにせよ、まず大切なのは、親密な会話をすることです。互いの感情を尊重しあい、お互いの弱さを受け入れます。自分の長所に誇りを持ち、互いに励ましあい、互いに協力し合うことが大切です。コントロールできない状況や、同意が得られない状況であったとしても、けしてあきらめません。こうすることは、互いの関係を豊かにし、築いていくための、重要な要素になるのです。これらの要素は、人間だけに有効なのではなく、国同士にも有効です。例えば、日本や、フィリピンのような国の関係に。

ピア・トゥ・ピアというパソコン同士でデータをやり取りする技術があります。その技術は、二つの国をつなげる絆として、フィリピンのいろいろな局面で見ることができます。例えば、政策表明、教育、芸術、科学、進歩する技術の分野、また、産業、文化や宗教の分野でも見るすることができます。友情の火が消えてしまわないように、また、友情が続くように、友情を育む必要性があります。

これに関して、日本とフィリピンの関係を改善するためのポイントを、以下のように提案したいと思います。まず、第一に二つの国は、お互いの文化に慣れることです。これは、お互いの宗教、システム、伝統、ものごとの考え方など、すべての起源を知るためにも必要です。フィリピンだけが日本を知っている状態や、日本だけがフィリピンについて知っている状態ではなく、互いをよく知り、相手の一部にならなければいけません。持ちつ持たれつの過程です。

第二に、偏見なくすよう、啓蒙しなければなりません。これは、最近ほかの先進諸国と比べるとき、フィリピンによく見られる傾向です。フィリピン人ということで差別されることは、回避できないと、強く言ってもいいかもしれません。特にフィリピンは、発展途上の第三世界に属しているからです。違いを認識することは、気づかないうちに、理解が進む可能性を秘めている一方、お互いの調和を構築する妨げとなる可能性もあります。

第三に、お互いの言語を勉強することです。そうすれば、お互いに分かり合うことができます。最近、多くのフ

フィリピン人が日本語を勉強しています。明確ではありませんが、これは両国に、友好関係を築き上げるため、重要な役割を果たす財産となります。私は、個人的な経験から、刺激され、日本語を学びたいという意欲をかりたせられました。その理由の一つは、交換留学生として、またボランティアとして、フィリピンへやってきた日本の友達と出会ったことです。このような経験から、わたしは確かな結論を持つに至りました。ある人が、相手の言語をきちんと表現できたら、友情関係が作れます。たとえ出会った時間が短くても、その関係は作られます。その人が、相手の話す言語を話すことができたなら、気持ちが相手の心に届きます。話しかけている人との関係が持てれば、素晴らしい喜びとなります。

第四に、平等になることです。そうすれば、お互いの違いについて、理解が進みます。理解が融合すれば、様々な面で多様性が生まれても、関係は順調に流れます。

第五に、卓越されたパートナーシップを築くことです。これは、単なるビジネス上の合意や、政治的な話し合いや、知的なプロパガンダのことだけではありません。これを通して、互いのプライバシーを侵害せずに、両国は個々に親密になることができるのです。この方法を使えば、両国の活動領域に、いい意味での相互作用が生まれるのです。

第六に、災害に見舞われた際、お互いに助け合うことです。これは、政治的、経済的危機に際して、財政的な面の問題に取り組むだけでなく、感情的な面でも問題に取り組むことです。快く行動すれば、それはアドバイスとなり、支援になることでしょう。

第七に、お互いの歴史を勉強することです。そうすれば、お互いの先祖の起源や、国の浮き沈みを知ることができます。歴史をさかのぼれば、昔フィリピンは日本に占領された歴史があります。混乱の時期はみじめで、つらく、苦しみました。現在、フィリピン人の中には、未だに昔の恨みを抱えている人もいます。過去に、日本が国や同胞に対してしたこと、恨みや復讐心を持っている人もいます。しかし、もう起こってしまったことを思い出しても仕方がありません。昔の影におびえていても、仕方がありません。過去のことは水に流しましょう。過去に起こったことは、終わらせなければなりません。もう忘れてしまっているのです。記憶をなくしてしまえば、財産にはなりませんが、代わりに潜在意識の奥深く、眠らせて埋葬してしまえばいいのです。

まとめれば、わたしが述べた貢献の方法は、日比関係を改善する最善の方法だと信じています。よりよい関係を作るため、すべてがうまくいくように、実践されている方法が幾千もあります。それでも解決されない問題や、反対意見もあります。その場合、みんな本当のことを言わない傾向があります。これでは、関係は強く育たないばかりか、弱弱しく、役にも立たず、確実に終わりをむかえてしまいます。何も無い状態に戻ってしまいます。両国の関係を、良好に調和された状態にしないと、強固な相互の関係を築き上げられる可能性自体がなくなります。

一人では、砂漠の中に強い塔を立てることはできません。関係においても同じことが言えます。基礎ができていないと、一人で関係を築くことはできません。友好関係は、足場が弱い状態では築くことができないのです。なんでも無条件に受け入れることは、長続きする友好関係を築くために、有効な材料として使うことができます。私は、それを勧めます。友好関係によって、わだかまりも困難もなく、癒されることでしょう。